

## 再評価結果（令和3年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課  
担当課長名：前佛 和秀

<b>事業名</b>	一般国道45号（三陸沿岸道路） <small>さんりくえんがんどうろ</small> 歌津～本吉 <small>うたつ もとよし</small>	<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	国土交通省 東北地方整備局
<b>起終点</b>	自：宮城県本吉郡南三陸町歌津字白山 <small>もとよし みなみさんりくちよううたつ しらやま</small> 至：宮城県気仙沼市本吉町津谷長根 <small>けせんぬま もとよしちようつ やながね</small>	<b>延長</b>	12.0km		
<b>事業概要</b> 一般国道45号（三陸沿岸道路 登米IC～釜石JCT）は、宮城県登米市から岩手県釜石市に至る約11kmの復興道路である。 三陸沿岸道路（歌津～本吉）は、三陸沿岸道路の一部を形成し、宮城県本吉郡南三陸町から宮城県気仙沼市へ至る延長12.0km、2車線の自動車専用道路である。					
<b>H23年度事業化</b>		<b>H-年都市計画決定</b>		<b>H23年度用地着手</b>	
<b>全体事業費</b>		約723億円		<b>事業進捗率</b>	
				約99% <small>（令和2年3月末時点）</small>	
<b>計画交通量</b>		13,900台/日			
<b>費用対効果分析結果</b> 【登米～釜石】	<b>B/C</b> （事業全体）	<b>総費用</b> （残事業）/（事業全体）		<b>総便益</b> （残事業）/（事業全体）	
	1.1（1.3） （残事業） 1.1（1.1）	17億円/5,620億円 （事業費：16億円/5,256億円） （維持管理費：1.1億円/364億円）		19億円/5,946億円 （走行時間短縮便益：12億円/4,898億円） （走行経費減少便益：6.5億円/781億円） （交通事故減少便益：0.32億円/267億円）	
<b>感度分析の結果【登米～釜石】</b>					
【事業全体】 交通量：B/C= 1.1～1.1（交通量 ±10%） 事業費：B/C= 1.1～1.1（事業費 ±10%） 事業期間：B/C= 1.02～1.1（事業期間+1年）			【残事業】 B/C= 1.1～1.2（交通量 ±10%） B/C= 1.01～1.2（事業費 ±10%） B/C= 1.1～1.1（事業期間+1年）		
<b>事業の効果等</b>					
①災害時のリダンダンシー確保					
②安定した救命搬送の確保 ・三次医療施設への速達性が確保されるとともに、安定した救命搬送を確保（気仙沼市立病院～石巻赤十字病院 R1年度末：62分→全線開通時：59分）					
③地域産業振興の後押し ・新設IC周辺の水産加工団地等の整備と併せて、地域産業のさらなる振興を後押し					
④広域観光の振興を支援 ・内陸部を含めた広域周遊観光ルートを形成するとともに、滞在時間が増加し、地域の観光活性化を支援					
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>					
○岩手県知事の意見					
1 「対応方針（原案）」案に対して異議ありません。					
2 三陸沿岸道路は、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの構築や迅速な救命救急活動、物流の円滑化・効率化、観光振興に資するなど、本県の復興や地方創生に欠かすことのできない社会基盤であることから、1日も早い全線開通をお願いします。 また、ハーフィンターチェンジのフルインターチェンジ化は、防災機能の強化や地域活性化等に資することから、コスト縮減にも配慮しながら、事業の進捗を図るようお願いします。 本事業において検討されたコスト縮減対策等については、本県で実施する事業においても十分検討し、活用していきたいと考えておりますので、引き続き御指導をお願いします。					
○宮城県知事の意見					
「対応方針（原案）」のとおり「継続」で異議ありません。 三陸沿岸道路は本県の復興に欠かすことのできない社会基盤であり、災害に強く信頼性の高い道路ネットワークの構築や迅速な救命救急活動、物流の円滑化・効率化、観光振興等に大きく寄与する道路である。 評価対象の歌津北ICのフル化事業は、気仙沼方面から旧歌津町における災害時の救援活動の強靱化が図られるとともに、気仙沼方面へのアクセス性が向上し、水産業をはじめとした産業振興が期待される事業である。					

今回の再評価については、歌津北ICのフル化事業の追加に伴う、全体事業費や事業期間についての変更であり、「対応方針（原案）」案に対して異議はない。引き続き、コスト縮減に最大限配慮いただき、一日も早い完成に向けて事業の進捗を図っていただきたい。

○以下の団体等から、三陸沿岸道路の整備促進について要望あり

- ・三陸縦貫自動車道・アクセス道路建設促進期成同盟会
- ・大船渡、釜石、大槌、山田間三陸縦貫自動車道整備促進協議会
- ・東北横断自動車道及び三陸縦貫自動車道整備促進釜石市民会議
- ・岩手県三陸沿岸道路整備促進期成同盟会
- ・気仙沼市・南三陸町、気仙沼・南三陸地方三陸沿岸道路整備促進協議会
- ・気仙沼・本吉地方リアス・ハイウェイ女性の集い委員会
- ・三陸沿岸都市会議（八戸市、久慈市、宮古市、釜石市、大船渡市、陸前高田市、気仙沼市）

事業評価監視委員会の意見

対応方針（原案）の事業継続は妥当である

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・この事業の目的が失われるような道路交通状況の変化及び関連プロジェクト等の変更はないが、宮城県消防受援計画の策定等、気仙沼市から南三陸町へのアクセス強化の必要性が生じた。

事業の進捗状況、残事業の内容等（【歌津～本吉】）

- ・平成23年度事業化、用地進捗率100%、事業進捗率約99%（令和2年3月末時点）

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

- ・事業の進捗に係る問題はない
- ・令和2年：小泉海岸IC～本吉津谷IC間 延長2.0km開通（11/21）

施設の構造や工法の変更等

- ・人道橋をこ道橋へ集約することで、コスト縮減を図っている。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

災害時の代替路及び緊急輸送道路の確保、広域ネットワーク形成による産業・観光・医療活動の支援のため、早期整備の必要性が高い。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
 ※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。